

地域のイメージを育てよう

— 地理の授業における視覚教材の役目 —

足利市立第一中学校 久保田和男

1 はじめに

「地理を学校で教える目的の一つは、地球上には、さまざまな自然があり、さまざまな生活が営まれていることを生徒に理解させることであろう。そのためには見知らぬ土地に対する興味をひきだし、事実を正しく認識させることが、まず必要である。正しい判断力はその上で養われる。…」(地理14巻2号 地理の学習)

誰でも人間は、見知らぬ土地に対して、ある種のあこがれと興味を持っている。満州イコール「赤い陽と荒野を馳けめぐる馬賊の群」といったイメージは20世紀後半に生きるわれわれにとって、もはや縁遠いものとなってしまったが、それでも異国への興味と関心はその国に対する何らかのイメージとなって、現われるはずである。そして、そのイメージは、ある時に読んだ、紀行文の一節の強烈な印象であったり、映画やテレビで見た一シーンであったりすることもある。

この見知らぬ土地への興味と関心を、地理の授業を有効に利用することはできないだろうか。学問としての「地理」が持つ高度の知的体系が、中学一年生の段階には無理であるという意見(地歴学習にπ型が導入される理由の一つか?)のあることも聞いているが、われわれ現場の教師が、歴史や政経社の授業を行なう際に感ずる生徒の抵抗や、教師の心中に湧き起る焦燥感にくらべれば、地理のそれが、はるかに少ないことを思うと、生徒の持つ見知らぬ土地への興味と関心こそ、学問としての「地理」への取りつきにくさを、幾分たりとも教っているものなどは、いえないだろうか。だからこそ、「世界の諸地域」の指導にあたっては、「地域のイメージ」を重視したいと思う。地域のイメージを持つことによって、見知らぬ土地に対する興味と関心は、より高められ、その事によって、学習効果を増すことにはならないか。単なる分布現象を理解するだけの地理の授業ほど、生徒にとって味気のないものはないだろう。そこでつめこまれた事象や数字の羅列の果して何パーセントが、生徒達の脳裏に定着するだろう。

ところで、地域のイメージを育てる地理の授業、といったところで「ジパング即黄金の国」式の誤れるイメージを植えつける授業では、何もならないし、危険でさえある。そこで、各種の視覚教材を使用することも必要だろうし、また、印象や体験も含めた旅行記、滞在記などを、積極的に利用することも大切だろう。例えば「極限の民族」一本多勝一著(朝日新聞社刊)に「アラビアの砂漠では、青々とした草に火を放つと、めらめらと燃え出す。」という一節があるが、この箇所を読んでやることによって、砂漠気候を示す一枚の雨温図が生き生きとした実感をともなって、生徒達の心に迫るだろう。また、視覚教材も同様な効果が期待されよう。つとめて写真類—それでもできるだけ大型のものを—を示すのもよいだろう。デライト・スクリーンの効率さえよければ、スライド類も使用したいところである。本校では43年度に試験的にOHPが購入されたが、これを「世界の諸地域」の授業に、集中的に利用させてもらった。現在までに約80枚のシートを自作して使用したが、それによって、さっそく生徒の地理的能力が高められたというデータは何もない。しかし、視覚にうったえることによって、地域のイメージを、より明瞭なものにするために、何らかの手助けになったのではないかと、自己満足している。以下は一時間の授業にOHPを集中的に利用してみた実践例である。

2 実践例 合衆国の工業

1 指導案

小単元 アメリカ(9時間扱い)

- 指導計画
- | | |
|--------------------|---------------|
| 1.合衆国の自然と社会 | 2.合衆国の農業 |
| 3.合衆国の工業(2時間扱い)一本時 | |
| 4.カナダ | 5.中南米の自然と社会 |
| 6.中央アメリカと西インド諸島 | 7.ブラジルとアルゼンチン |
| 8.アンデスの国々 | |

本時の指導

1. 題目 合衆国の工業(2時間扱い)
2. 観点 省略
3. 目標

- ① 合衆国の工業生産額は世界一であり、重工業から軽工業まで、あらゆる産業が発達していることを理解させる。
- ② 合衆国が今日の地位を築き上げた背景には、新しい土地に伸び伸びと資本主義が成長し、豊かな資源と、たくましい開拓者精神がこれをささえてきたことを認識させる。
- ③ 合衆国の工業について、その特色や工業地域の分布を理解させ、人びとが恵まれた自然の条件をいかに有効に活用しているかを理解させる。

4. 教材観

この指導にあたって、合衆国の工業の特色を次の三点としてとらえた。

- ①工業の地理的地域主義 ②大量生産と大量消費 ③ワールドエンタープライズの集中

5. 展開

指導事項	学習内容と活動	資料	留意点
1. 世界一の貿易国	<ul style="list-style-type: none"> ○ドルが国際通貨としての役割を果たしている理由を考える。 ○世界一の貿易国をささえているのは、たくましい工業力であることに注目する。 ○合衆国が世界一の工業国に成長した理由を資料から考える。 <p>着眼点</p> <ul style="list-style-type: none"> めぐまれた自然(国土) ゆたかな資源 たくましい開拓者精神 	<p>実物 ドル紙幣 写 FRBの金庫</p> <p>○HP合衆国の貿易 ○HP世界の鉄鋼生産高 ○HP世界の鉄鉱石生産高 ○HP世界の石炭産出高 ○HP世界の原油産出量 ○HP世界の非鉄金属鉱石産出高</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○金の裏づけ→金の集中→万年輸出超過の貿易に着眼させる。 ○工業力の大小を示すバロメーターとして鉄鋼生産高の割合を用いる。 ○単なる自然環境の優位にのみ原因を求めないようにアフリカの場合と比較して考えさせる。 ○大学進学率の高さにも注意させる。
2. 資本主義の国	<ul style="list-style-type: none"> ○合衆国が大量生産と大量消費を基盤とする資本主義の国であることを知る。 ○合衆国の大企業にはどんなものがあるか。それがどの程度の規模であるか、日本の大企業の場合と比較してみる。 	<p>○HPエンパイヤービル 写 ウォール街</p> <p>写 ジャンクヤード ○HP大企業の世界一と日本一の比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の興味をひきそいなエンパイヤービル(資本主義の象徴)の話から導いていく。 ○大量消費の例としてジャンクヤード(自動車の墓場)の写真を用意しておく。

指導事項	学習内容と活動	資料	留意点
<p>3. おもな工業</p> <p>4. 重要な産業</p>	<p>○合衆国の繁栄の陰にかくされたものについても考えてみる。</p> <p>○合衆国の工業を代表するものに、どんなものがあるか調べる。</p> <p>食品加工業 自動車工業 機械(一般)工業</p> <p>○合衆国の工業生産に刺激と需要を与えている要因に多額の軍事予算のあることに気づく。</p>	<p>写 高豪の屋敷 写 ワシントン広場 写 忘れられた人々 OHP 自動車主要メーカーの生産規模</p> <p>OHP 合衆国の連邦予算</p>	<p>○自動車、石油、電機、鉄鋼、化学の各部門で売上高を比較してみせる。</p> <p>○資本主義の欠陥を追求することは三年の分野にゆずり、繁栄のひずみを指摘するにとどめる。</p> <p>○工業部門別従業者数によりベスト3を選ぶ。</p> <p>○身近にある米国製品の例から食品加工業のさかんなことに気づかせる。</p> <p>例 コカ・コーラ コーンフレーク</p> <p>○アポロ8号の成功—多額の開発費—連邦予算の60%を占める軍事費に注目させる。</p>
<p>5. おもな工業地域</p> <p>6. 北東部地域</p> <p>7. 太平洋沿岸</p>	<p>○地図帳を見て、工業のさかんな地域を調べる。</p> <p>北東部地域 南部地域 太平洋沿岸地域</p> <p>○五大湖南岸から大西洋沿岸にかけて工業生産の85%以上が集中していることを知る。</p> <p>○ここに工業地域が形成された理由を考える。</p> <p>1. 資源立地 2. 都市の集中 3. 交通網の集中 4. 湖上交通(ローソン連絡)</p> <p>○教科書に出てくるおもな工業都市の位置と性格を調べる。</p> <p>ボストン・ニューヨーク フィラデルフィア・ピッツバーグ・デトロイト・シカゴ・ミネアポリス</p> <p>○地域によって生産種別に相違があることに気づく。</p> <p>○新しい工業地域カリフォルニアについて特色を調べる。</p> <p>航空機工業の集中</p> <p>シアトル………1社 ロス市………3社 サンジェゴ市……1社</p>	<p>写 ナイアガラ滝 OHP 五大湖の水運 OHP おもな工業都市 OHP 炭田と鉄山 OHP 合衆国の農業区 写 フォードの自動車工場 写 シカゴのストックヤード</p> <p>OHP 合衆国の貿易</p>	<p>○ごく簡単に三地域に分類させる。</p> <p>○指導の重点を北東部地域におく。</p> <p>○すでに学習してきた工業地帯の立地条件から類推させる。</p> <p>○OHPを使用して地理的地域主義の生じた理由を考えさせる。</p> <p>例 1. 瀑布線都市 2. 炭田と湖鉄 3. コーンベルトとシカゴやオマハ</p> <p>○航空機が合衆国の重要な輸出品(4位—1966年)であることに注目させる。</p> <p>○生徒の知っている旅客機から導く。</p>

指導事項	学習内容と活動	資 料	留 意 点
	<p>○ロス市の地図から飛行場の多いことに気づく。</p> <p>○第二次大戦中に発展した工業地域であること、将来性のある点に気づく。</p>	<p>OHP</p> <p>ロス市と東京都の広さの比較</p>	<p>例</p> <p>ボーイング 727</p> <p>ダグラス DC8</p> <p>○航空機産業の集中した理由については次の3点を説明する。</p> <p>1. ハンドワーク→多くの労働力(カリフォルニア農民の余剰労働力)</p> <p>2. 戸外作業→晴天日の必要(地中海性気候)</p> <p>3. ストライキを嫌う→納期の重視</p> <p>(副業的な農民労働)</p>

2 使用したOHPのシート

1. 合衆国の貿易(1966年) 国勢図会(1968年)
2. 世界の鉄鋼生産高(1966年) — 上位6か国 "
3. 世界の鉄鉱石生産高(1966年) — 上位6か国と日本 "
4. 世界の石炭産出高(1966年) — 上位6か国と日本 "
5. 世界の原油産出量(1966年) — 上位6か国と日本 "
6. 世界の非鉄金属鉱石産出高((1965年)(プリンターで複写) "
7. 世界の大会社(1966年) — 合衆国と日本の売上高1位 "
8. What everybody wants to know about
the Empire State Building
(プリンターで複写) 地理教師のみたアメリカ(古今書院)
9. 自動車主要メーカーの生産規模(1966年) — 上位6社とトヨタ, 日産
国勢図会(1968年)
10. 連邦政府の全予算に対する軍事費の割合(1964年) 世界の文化地理(講談社)
11. 五大湖地方とセントローレンス川
12. 合衆国の主要工業都市
13. 合衆国のおもな炭田と鉄山
14. アメリカの主要製鉄所の分布 地理教師のみたアメリカ
(プリンターで複写) (古今書院)

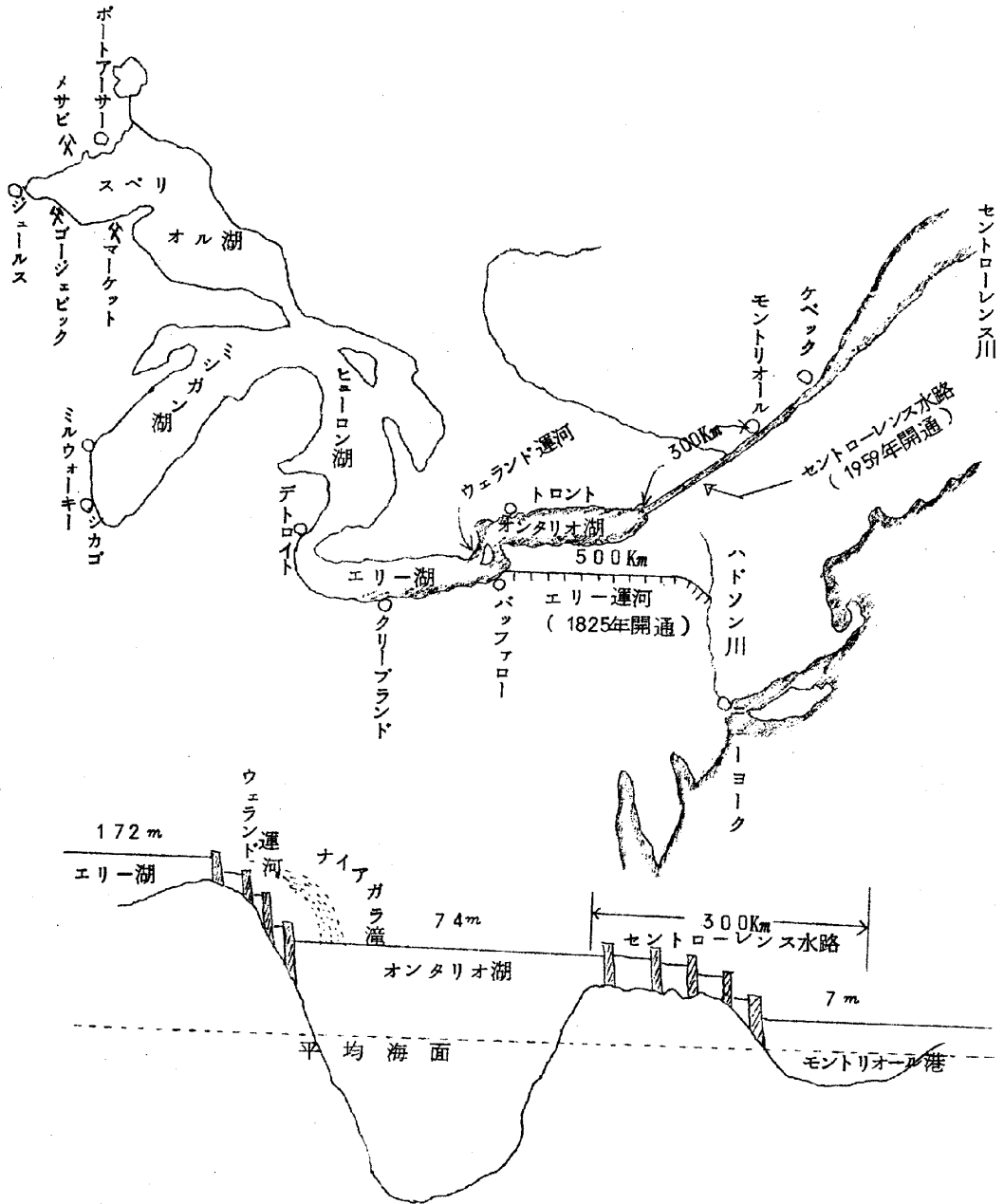
15. 合衆国の農業区

16. ロスアンゼルス市と東京都の広さの比較

世界の文化地理(講談社)

(プリンターで複写)

(例) 11. 五大湖地方とセントローレンス川



3 反 省

第1時には10枚のシートを投影したが、器具をセットする時間を除いて、授業時間を正味45分として、平均4.5分に1枚の割合でシートを投影することになり、時間に追われ、いきおい教師中心の授業にならざるを得なかった。例えば、合衆国の資源の豊かさを印象づけるのに、通り一遍の言葉だけでなく、数字によって実証するために、

- 1.世界の鉄鉱石生産高
- 2.世界の非鉄金属鉱石生産高
- 3.世界の石炭生産高
- 4.世界の原油産出量

以上、4枚のシートを用意した。もちろん、短時間のうちに写し出されるこれら個々の数字が、生徒に定着するはずもないし、また、それを望むところでもないが、こうすることによって、この国の資源の豊かさが、これでもか、これでもか、といった実感を伴って迫ることを期待したからである。しかし、理想は理想として、回を追うごとに、生徒の感動も薄れていくようであるし、何よりもこれだけの量のシートを自作する労力たるや大変なものであった。こう考えると、一時間に使用するべきシートの枚数は5枚でいどが限度だろう。

次の問題点は、天候によって投影効果が左右されることである。125×125cmのデイトライト・スクリーンに投影される画面は、曇天とか、晴天日でも午後の授業には威力を示すが、晴天日の午前中、直射光線を受けると、暗幕設備のない教室ではお手あげとなる。従って、これらの視覚教材設備を充分に活用できる社会科教室の設置が必要である。

ところで、この授業(アメリカ合衆国)を終るにあたって、合衆国に対する生徒のイメージを調査してみた。

高 久 恵 里

社会科の授業でアメリカ合衆国を勉強しました。一番始めに歴史(開拓)について勉強しました。日本とくらべると新しい歴史なのに、工業や産業の進んだ技術には、目を見はるばかりです。国じたいも、とても大きく、日本の何倍もあることでしょう。人口も日本の2倍はあります。アメリカは広いので一つの国の中に、いろいろな気候がいらまじっています。(中略)

国民の生活程度も高く、よい生活をしている国民が多いようです。つきに私の目にうつったのは工業です。世界一の貿易国で資源にめぐまれ、土地にめぐまれ、なんでもそろった国です。繁栄の理由は、資本主義国だということにもあるようです。交通も発達しており、なかでも自動車道路や国内航空路の発達はめざましいものです。

また工業の話にもどります。工業は世界一です。おもなものは、

- 1.食品加工業
- 2.自動車
- 3.機械工業

です。しかし、地域によって作っているものにちがうものもあります。

これまであげた合衆国をみての感想は、めぐまれたすばらしい国、というひとことにつきてしよ。しかし、繁栄の陰には黒人問題、ヒッピー族、貧しい白人といった悩ましいことが、いろいろあるのです。そしていま、アメリカは戦争をしています。ある面では、とても残酷な国ともいえましょ。しかし私は、めぐまれた広いアメリカ合衆国に感嘆するばかりです。

アメリカは世界のボスだと思はる。すべての面でそうだと思はる。ずるさもなかなかある。オリンピックで黒人を使つて金メダルをとらせる。それでいて人種差別をする。すこし調子にのつてゐるよゝな気もする。ベトナムを毎日、爆撃したりする。お金をすてるよゝなものだ。もつたいない。

ぼくはアメリカを好きになれない。でも、すこしあこがれてゐる。なんといつても、大統領が選挙で決まることだ。日本では天皇陛下が決まらつてゐる。つまり、ぼくたちは天皇陛下になれないといふことだ。誰だつて、いちばんえらくなりたい。こういう気持は誰だつて持つてゐる。アメリカなら、家からも関係ないし、貧乏だつて大統領になれる。こういうところが、ぼくは気にいつてゐる。

もうひとつ気にいつてゐることは、土地が広いといふことだ。あとは何もかも好きになれない。困つてゐる国にお金を分けるのはいいが、それをもとに自由主義の国になることを勧める。まだある。なんでソビエトと仲よくできないのだらう。世界は社会主義、自由主義、中立主義の3つだ。戦争がおこつたら、社会主義対自由主義の戦いだらう。そゝなつたら大変だ。だから、ソビエトとアメリカでなかくよくなればいいのだと思はる。

以上の2つは、代表的な生徒の意見であるがその中にもその豊かさをうらやましがられ、そのたくましいバイタリティを賞讃され、なおかつ恐れられ、嫌われるアメリカ合衆国—これが日本人一般の、いや、世界の多くの人々が持つ平均的なアメリカ観か？—といつた見方が感じられ興味深かつた。

しかし、両者ともに批判的ではあれ、「豊かさと、たくましさ」を合衆国のイメージとして持つてゐるところを見ると、この時間のねらいは、ある程度、達成されたとはいえないか。自画自讃のそしりも受けよゝが、合衆国の指導（4時間）に使用された20枚以上のシートに書かれた数字や地図、そして、写真で示された偉大な国の様々な景観（大画面のスライドで生徒を圧倒したかつた）は、この瞬間に「豊かさと、たくましさ」のイメージの中に結晶したのではなかるうか。

評

最近の教育界においては、教育機器の導入が盛んになり、授業の質的改善が試みられているが、この教育機器の導入にあたっては、ともかく自分で教育機器を使ってその長所短所を確かめてみるのがたいせつであろう。さて筆者は地理学習の中で、地域のイメージを育てることがたいせつであり、そのためにOHPを活用することが効果的だという観点から、実際にOHPを使った授業の効果と問題点を提示されたことは、今後OHPを使われる方々には参考になる点が多いであろう。なお、筆者のOHPの使い方は西本洋一氏（玉川大助教授）のいうスライド的用法（実際の姿を教室の中に持ちこむことができる。）かフラッシュ=用法（イメージの合成によい）あるいは大藪英彦氏（港区立港南中）のいうプレゼンテーション方式の用法（図表・絵・写真・文章等作成したTPを写して提示する方法）が主となっているようにも感じられる。筆者や読者もすでにご存知のように、この使い方のほかにも、板書的用法、チャートの用法、合成映写用法、加入消去方法、部分映写用法、作動映写用法、動画の用法、マジックボード・フランネルボード的用法（西本洋一氏の分類による）など各種の使い方があり、これらの実践的研究も大いに期待されているので、今後のいっそうのご研究を祈ってやまない。